

ウズベキスタン共和国における特別なニーズをもつ児童を インクルーシブ教育システムで教育するための 心理・医学・教育委員会の役割

Educating children with special educational needs in the Republic of
Uzbekistan in an inclusive education system.

- The role of the psychological, medical and educational commissions-

アリモヴァ・グルミラ・カブルジャノブナ (Alimova Gulmira Kabuljanovna)¹⁾・
本間貴子 (Takako Homma)²⁾

1) ウズベキスタン共和国教育開発・科学方法論センター、特別
教育学・インクルーシブ教育開発部門, 部門長

Head of Division of the Department of Development of
Specialized Pedagogy and Inclusive Education, Republican
Scientific and Methodological Center for the Development of
Education of the Republic of Uzbekistan

2) 国土館大学 文学部 教育学科

Department of Education, Faculty of Letters, Kokushikan
University

I. はじめに

ウズベキスタン共和国 (以下; ウズベキスタン) は、2021年
に障害者の権利に関する条約を批准して以降、2023年現在まで、
障害のある人々や特別な教育を必要とする子どもたちの社会生活
と教育を改善すべく注力してきた。

ウズベキスタンにおいて、インクルーシブ教育とは、特別な教育
能力と個人の多様性を持つすべての生徒が平等に教育機関に参
加できるようにする教育であり、インクルーシブ教育の目標は、

親の個人の特性、それまでの教育歴、言語、文化、社会的経済的地位に関係なく、教育を受け成功するための教育の機会を提供することであると定義されている。

ウズベキスタンでは、2020年から通常学校内にインクルーシブ教育学級が開設され始めた。特別な教育的ニーズを持つ生徒が校舎内で移動可能な条件が整っている学校に、「インクルーシブ教育学級（健常児とニーズのある子が一緒に学ぶ学級）」や「初等矯正学級（以前から通常学校にある特別な学級）」が組織される。両学級は、地域住民のニーズおよび保護者またはその代替者の提案に基づき、就学前・学校教育省、タシケント地域の就学前・学校教育局が組織する。必要な条件がすべて揃っていれば、州の教育機関でなくともインクルーシブ教育学級や初等矯正学級を組織することが可能である。その場合、地域の就学前教育部門や学校教育部門や地域公立学校のインクルーシブ教育学級や初等矯正学級の組織と連携して、非政府教育機関が学級運営を行う。地域の幼稚園および学校教育部門の下に設置された心理・医学・教育委員会の定めによれば、インクルーシブ教育学級および初等矯正学級への生徒の入学および退学は、保護者またはその代替者、個人の同意を得て行われている。インクルーシブ教育学級および初等矯正学級に生徒が入学する場合、その手続きを基本的に行う組織が、心理・医学・教育委員会である。

本稿では、ウズベキスタンにおける、特別な教育が必要な子どもをインクルーシブ教育に包含するための法的慣行、地域における心理・医学・教育委員会の役割について取り上げ、紹介する。また、親またはその代替者の参加、バリアフリーに適応した学校の創設などについても触れ、ウズベキスタンにおけるインクルーシブ教育の教育環境の問題、社会への効果的な貢献・適応ならびに完全な統合を確保するという問題について検討する一助とする。

次項の内容は、引用・参考文献に記したウズベキスタンの法令に依拠している。

II. インクルーシブ教育システムにおける心理・医学・教育委員会の役割

インクルーシブ教育学級および初等矯正学級で学びたいという希望を表明する生徒は、学校が所在する地域の心理・医学・教育委員会の紹介に基づいて入学が許可される。インクルーシブ教育学級および初等矯正学級への生徒の入学は、入学する学年の開始前か学年中に行われ、学校長の命令によって正式に決定される。

インクルーシブ教育学級および初等矯正学級に通学を希望する各生徒の個人文書は、保護者またはその代理人によって学校管理者に提出される。生徒の個人文書コレクションには次の文書が含まれる。

- 親またはその代理人の申請書
- 心理・医学・教育委員会の結論が記載された文書
- 教育に関する文書（教育機関で学ぶ子ども向け）
- 教育を受けてきた期間の詳細な分析、教科の科目の習熟と行動の習得について、生徒に個別のサポートを提供するために講じられた措置を示す参考文献と説明
- 生徒の居住地域の病院の主治医による診断文書、通院歴、病歴等の抜粋

心理・医学・教育委員会は、カラカルパクスタン共和国（ウズベキスタン国内の自治共和国）の就学前・学校教育省、タシケント市就学前・学校教育局、およびその監督の下、地域の就学前・学校教育部門によって組織されている。当委員会は公的に活動を行い、その活動においてはウズベキスタンの憲法および法律、ウズベキスタン共和国議会の決定、共和国大統領の政令、決定および命令を遵守する。ウズベキスタンの閣僚の決定に従い、命令およびその他の法的文書を遵守する。委員会は、意思決定における公平性、公開性、透明性、合議性の原則に基づいて活動を実施する。その活動は、就学前教育部門と学校教育部門、カラカルパクスタン共和国保健省、タシケント市の主要保健局および地域保健局によって調整される。活動の実施において、委員会は就学前および

学校教育、保健医療、医療および社会サービスの開発機関、ならびに公的機関を含む子どもの社会的保護を認可された組織と協力する。

心理・医学・教育委員会の目的は、6歳から18歳までの特別な教育的ニーズのある子どもたちを特定し、彼らをインクルーシブ教育および専門教育機関（専門教育機関の6歳の子どものための研修グループ）に入学させるための結論を出すことである。そのための当委員会の主な任務は以下のとおりである。

- 身体的または精神的な発達障害を判断するために、親またはその代理人の立会いのもとで子どもを検査する。検査中に子どもたちと直接コミュニケーションを取り、彼らの欠陥を確認する文書を調査する。
- 子どもへの身体的または精神的な発達障害について、居住地の病院の医師が行った診断の信頼性を調査する。
- 発達障害の総合的な検査の結果に基づいて子どもの能力を判断する。
- 子どもへの身体的または精神的な発達障害の診断が確認された場合、子どもを適切な専門教育機関に送るための結論を出す。
- ある専門教育機関から別の専門教育機関、またはインクルーシブ教育のための一般教育機関への児童の編入に関する結論を与える。
- インクルーシブ教育を目的とした一般教育機関に子どもたちを派遣するための紹介を発行する。
- 専門教育機関からウズベキスタン共和国保健省および医療社会サービス開発庁の関連機関に子どもを移送する際の結論を提供する。
- 教育学者、心理学者、医療従事者、特別な教育的ニーズを持つ子どもたちと関わる親またはその代理人に必要なアドバイスを提供する。
- 法的文書に従ってその他の手続きの業務を実行する。

心理・医学・教育委員会は、幼稚園および学校の教育および保

健部門の共同決定に基づいて、毎年5月20日までに設立される(ウズベキスタンの学校は9月が始業式である)。当委員会の構成は少なくとも7名以上の奇数のメンバーで構成される。この委員会には、高度な心理学、医学、教育学の教育を受け、5年間の職歴を持つ高度な資格を持つ専門家で構成される。心理学者、教育者・「欠陥学」者(聴覚障害者教育者、言語療法士等)、精神神経科医、神経病理学者、整形外科医、耳鼻咽喉科医、眼科医、小児科医も含まれる。当該年度の委員会に含まれていた専門家は、委員長、副委員長及び書記を除き、次の2年間は委員として加わることができない。

心理・医学・教育委員会の委員長には地域の就学前教育局長またはその代理が任命され、委員会の副委員長には母子保健部長が任命される。地域の就学前教育局および学校教育局の子どもの社会心理的サポートおよびインクルーシブ教育部門の責任者が委員会の事務局長を務める。委員会の委員長は、委員会の業務を組織し、作業計画を承認し、会議の時間と場所を決定し、委員会に割り当てられた任務の遂行を監督する。地域の就学前教育部門と学校教育部門は、委員会の活動に必要な条件を作り出す。

心理・医学・教育委員会の会議は、委員長が承認した計画に基づいて、6月の最初の営業日から10月の最後の営業日まで少なくとも週に1回、委員会が次の委員会を設定するまで少なくとも月に1回開催されるものとする。委員会メンバーは、委員会会議の開催日の少なくとも3日前までに、または委員会会議を開催する必要がないことを委員会書記官から通知される。委員会のメンバーは全員、委員会の会議に参加しなければならない。委員会の会合では、委員会のメンバーの結論に基づいて決定が行われ、正式に報告書が作成され、報告書には委員会のメンバー全員が署名する。

心理・医学・教育委員会の書記は、委員会の業務に関連する以下の文書を保管する。

- 委員会が受け取った申請の登録文書
- 委員会会議の議事録と議事録のコピーを記録するためのノー

ト

また、当委員会の結論を得るために、以下の書類が子どもの両親またはその代理人によって提出される。

- 子どもの出生証明書のコピー
- 子どもの教育に関する文書
- 学習場所からの子どもの教育期間、教科および行動の習得、子どもに個別のサポートを提供するために取られた措置の詳細な分析（学童向け教育機関）を示す参照と説明
- 子どもの発育履歴からの詳細な抜粋。子どもが住んでいる病院の主治医が署名したもの
- 子どもの一般的な発達の状態に関する小児科医の意見を記した文書
- 精神神経科医の医学的診断と子どもの精神発達の説明
- 耳鼻咽喉科医による、言語の調音に関与する耳、喉、鼻等の器官の状態に関する説明（聴覚障害のある子どもの音声およびささやき言葉の知覚状態に関する情報、聴力図データ）
- 眼科医による視覚器官の説明（視覚障害のある子どもの詳細な診断）
- 整形外科医の説明（筋骨格系疾患のある子どもを対象）

子どもの検査日については、子どもの両親またはその代理人に委員会事務局から通知される。検査を受ける子どもは、個々の特性、年齢、性別、身体的および精神的状態を考慮して、委員会によって検査される。子どもは、委員会の指示に従って、親またはその代理人の立会いのもと、各委員または複数の委員によって同時に検査される。

心理・医学・教育委員会が、子どもたちを診察し、子どもたちと直接コミュニケーションをとり、子どもたちの欠陥を確認する文書を検討した結果、身体的または精神発達の障害の診断が委員会のメンバーによって確認された場合、子どもたちは専門教育またはインクルーシブ教育を受けることになる。委員会の結論は、教育を受ける際に、特別な支援を得るという子どもの権利を保障

する文書になる。法律では、審査を受けた児童に関する委員会の議事録は、5日以内に保護者またはその代理人に渡さなければならないと定められている。心理・医学・教育委員会の委員長と委員は、委員会が出した結論と勧告の有効性に対して責任を負う。就学前教育省とウズベキスタン共和国保健省が委員会の活動を監督している。

子どもに軽度の身体的または精神発達の障害（精神発達遅滞、軽度精神遅滞、聴覚障害、視覚障害、脳性麻痺など）がある場合は、インクルーシブ教育のための地域の公立学校に転校することができる。保護者は、その裁量により、学年度中または学年度後に子どもを寄宿学校（寄宿制の特別な学校）からインクルーシブ教育のための学校に転校する権利を有する。子どもを寄宿学校から地域の公立学校に編入させるために、親はその理由を示して、幼稚園および学校教育部門に申請する。この申請は、心理・医学・教育委員会によって検討される。就学前学校および学校教育部門は、心理・医学・教育委員会の肯定的な結論を受け取った後、生徒の転校のための紹介状を発行し、同日に継続教育のために選択された学校に提示する。当該生徒が学んでいる寄宿学校には、紹介について文書で通知される。当該生徒が学んでいる寄宿学校の校長は、幼稚園・学校教育局から送られた文書を受け取った後、即日、当生徒を寄宿学校から退学させる命令を受理する。寄宿学校の校長は保護者にこの命令を通知し、通知文を保護者に渡したということを証明する文書に署名する。寄宿学校からの生徒の退学に関する命令の書類には、以下の内容が含まれる（抜粋）。

- 生徒の評価（習熟度）
- 学生の医療カード
- カラカルパクスタン共和国就学前・学校教育省、地域就学前・学校教育局、タシケント市就学前・学校教育総局のもとに設置された心理・医学・教育委員会の結論。生徒を寄宿学校から退学させる根拠

寄宿学校にいる生徒を別の寄宿学校に編入学させる際には、幼

稚園および学校教育部門が紹介状を発行し、保護者は、書類が発行されたことを示す証明書を受け取る。保護者は、幼稚園および学校教育部門が発行した、別の寄宿学校に転校させるための紹介状と、心理・医学・教育委員会の結論とこの手順で指定された文書を学校に提出する。学校長はその日のうちにその生徒を学校に入学させる命令を出す。

生徒が入学することになる寄宿学校の学校長は、当該生徒が寄宿学校に入学する際に、情報を得るために命令のコピーを1営業日以内に、その生徒が以前に教育を受けていた寄宿学校に送信する。保護者が書類を受領したという書類、生徒の転校に関する就学前教育部門および学校教育部門からの文書、生徒が入学することになった学校の校長の命令の内容は、寄宿学校で生徒の個人文書のコレクションとして保管される。

生徒の学業を継続するために選ばれた学校の長は、当該生徒が教育活動に円滑に参加できるように、必要なあらゆる措置を講じなければならない。以前在籍していた寄宿学校長による生徒を退学させる命令と、その生徒を受け入れる寄宿学校長の命令が出された後、その生徒の名前は、3日以内に学級日誌と生徒活動簿（日本の学齢簿に相当する）に記載される。

Ⅲ. まとめ

ウズベキスタンでは、特別な教育的なニーズのある子どもを教育する場として、一般の学校の内のインクルーシブ教育学級、初等矯正学級と、寄宿舎制の特別な学校（寄宿学校）があるが、就学先の決定と手続きにおいては、心理・医学・教育委員会の果たす役割が大きく、その手続きについては、法令で詳細に定められている。心理・医学・教育委員会が出した結論と勧告が子どもの教育の場に与える影響は大きい。このような手続きを経て決定された特別なニーズを持つ子どもたちが通う学校では、学校長がニーズのある子どもが円滑に教育活動に参加できるようにしてはならない。

【引用・参考文献】

1. O'zbekiston Respublikasi Prezidentining "O'zbekiston Respublikasi Xalq ta'limi tizimini 2030-yilgacha rivojlantirish konsepsiyasini tasdiqlash to'g'risida" 2019-yil 29-apreldagi PF-5712-son Farmoni. <https://www.lex.uz/uz/docs/-4312785>.

2. O'zbekiston Respublikasi Prezidentining "Alohida ta'lim ehtiyojlari bo'lgan bolalarga ta'lim-tarbiya berish tizimini yanada takomillashtirish chora-tadbirlari to'g'risida" 2020-yil 13-oktabrdagi PQ-4860-son qarori. <https://www.lex.uz/uz/docs/-5044711>.

3. O'zbekiston Respublikasi Vazirlar Mahkamasining 2021-yil 12-oktabr "Alohida ta'lim ehtiyojlari bo'lgan bolalarga ta'lim berishga oid normativ-huquqiy hujjatlarni tasdiqlash to'g'risida" gi №-638-sonli Qarori. <https://www.lex.uz/uz/docs/-5679836>.

4. "Inklyuziv ta'limning dolzarb masalalari: muammo va ularning yechimlari" mavzusidagi xalqaro ilmiy-amaliy konferensiya materiallari to'plami. "Lesson-Press" nashriyoti, Toshkent - 2022.

5. "Inklyuziv ta'lim: xalqaro tajriba va amaliyot, erishilgan natijalar, muammo va ularning yechimlari" xalqaro ilmiy-amaliy konferensiya materiallari to'plami "IMPRESS MEDIA", Toshkent - 2023-yil.

ウズベキスタン共和国における特別なニーズをもつ児童をインクルーシブ教育システムで教育するための心理・医学・教育委員会の役割（アリモヴァ・ケルミラ・本間